金沢市地産地消の再生可能エネルギーによる公共交通脱炭素化事業

応募様式A

金沢市地産地消の再生可能エネルギーによる公共交通脱炭素化推進プラットフォーム

事業の基礎情報

実施主体	金沢市
事業実施地域	金沢市
共創の類型	官民共創 ・ 交通事業者間共創 ・ 他分野共創
他分野共創の類型	エネルギー・環境
共創パートナー	北陸鉄道株式会社、金沢エナジー株式会社
運行形態	コミュニティバス
運行主体	北陸鉄道株式会社

取組の概要

（現状の地域課題と事業目的）

温室効果ガスの排出の多くを占める交通部門の脱炭素化を進めるためには、過度に自家用車に依存せずとも暮らせる社会を実現する必要があり、公共交通機関自体も脱炭素化を進めることも重要である。本事業は、金沢市中心市街地の細街路を運行している「金沢ふらっとバス」を、市内路線バスの脱炭素化の先駆けとして、地産地消の再生可能エネルギーを活用した金沢ふらっとバスのEV化を行うことを目的とする。

（事業の概要）

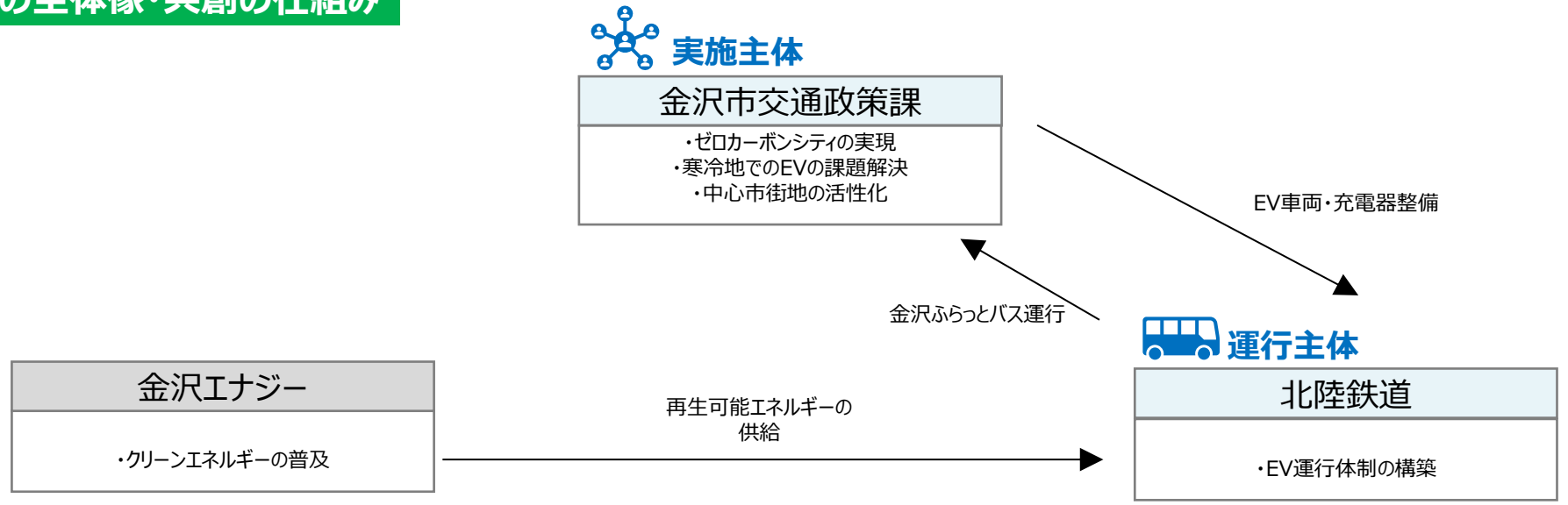
令和５年度では金沢ふらっとバス運行ルート（4ルート）におけるEV車両の走行実験を行ったが、どのルートにおいても、厳冬期の走行には、航続可能距離や車体構造の課題があり、全ルートでの導入は現状難しい結果となった。Ｒ６年度は、北陸鉄道が運行する最も航続距離の短い此花ルートで、EV車両を１台のみ導入（車両購入）し、課題解決のため、複数台あるいは他ルートでの導入を視野に、実証運行を継続する。また令和５年度では、仮設であった充電設備を、再構築し、金沢エナジーが供給する再生可能エネルギーを使用する。

金沢市地産地消の再生可能エネルギーによる公共交通脱炭素化事業

応募様式A

金沢市地産地消の再生可能エネルギーによる公共交通脱炭素化推進プラットフォーム

事業の全体像・共創の仕組み



取組の詳細

（地域の関係者との連携・協働）

・EVを導入する此花ルート上の公民館と連携し、金沢ふらっとバスを題材にしたモビリティマネジメント・SDGｓ学級を開催し、地域住民の公共交通の利用促進、コミュニティの活性化、ＥＶバス導入の機運醸成を行う。
・運行主体である北陸鉄道株式会社の路線バスのEV化の可能性を引き続き検証するほか、地域住民のクリーンエネルギーの関心を高める。

（実証事業により見込まれる効果）

・ コロナ前で年間約70万人以上の利用があるまちなかを走行する金沢ふらっとバスのEV導入を端緒として、ゼロカーボンシティの実現や、公共交通利用促進、中心市街地の活性化を見込む。

取組の詳細

（事業実施手順・スケジュール）

項　目	時　期																	
	4		5		6		7		8		9		10		11		12		1		2		3
■補助金交付申請(市)	←	-	-	→																			
■金沢市6月議会財産取得審議(市)					←	→																	
■車両・充電設備整備(3者)						←	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	→		
■運行計画策定(市・北陸鉄道)											←	-	-	-	-	-	-	→					
■モビリティマネジメント・SDGs講座の開催(3者)											←	-	-	-	-	-	-	→					
■実績報告(市)																					←	→	

※令和７年４月にEVバスを此花ルートに実証運行

（補助事業実施後の予定）

補助事業中に此花ルートにEVバスを１台導入し、令和７年４月に実証運行を開始する。課題となっている厳冬期の走行等の課題対処を、集中的に進め、他ルートでのEV化を検討する。また、金沢ふらっとバスを題材にしたモビリティマネジメント・SDGｓ学級を開催し、定例的に実施する。